

Techno-Ocean 2025への参加

2025年11月27日

2025年11月27日から29日にかけて、テクノオーシャン・ネットワーク（会長：満岡次郎 経団連 海洋開発推進委員長）が主催する「Techno-Ocean 2025」が神戸国際展示場で開催された。Techno-Oceanは、1986年より神戸で隔年開催されている国際コンベンションで、2025年は「海と生きる」をテーマに、展示会や一般市民向けイベント、内閣府総合海洋政策推進事務局長の舟本浩氏ほかによる基調講演をはじめ、複数のパネルセッションが行われた。

当研究所からは、「海運GXの今とこれから」と題したパネルセッションに久保研究員が登壇し、プレゼンテーションを行うとともに、産官学の7名の専門家とパネルディスカッションに参加した。登壇者からは、国際海運の脱炭素の新たなルール、カーボンニュートラルポートの取組、水素・アンモニア燃料船の開発動向、各業界の脱炭素技術開発・導入の状況などが紹介された。久保研究員から、「海運CO₂削減に向けた燃料転換」と題して、当研究所が実施した共同研究「海運CO₂排出削減のための燃料転換に関する調査研究」（2022年度～2023年度）及び「交通産業GXロードマップに関する調査研究」（2023年度～2025年度）の成果を紹介したうえで、規制導入時の留意点、新燃料選択における課題、海運以外の関係者への理解促進の必要性など、今後の海運の脱炭素に向けた論点を提示した。

パネルディスカッションでは、脱炭素技術の導入や制度・運用の課題について幅広く議論された。最後に、持続可能な

海運を実現するためには、技術者育成が重要であり、企業と大学の共同研究などを通じて、学生に業界の魅力を直接伝える機会が有用であること等が議論された。



発表を行う久保研究員



パネルディスカッションを行う久保研究員